

赤色灯

『年末における防火防犯』 について

全国各地で毎年年末に災害や犯罪が多発しています。そのような災害・犯罪を未然に防止する事を目的として富士見町消防団でも、12月1日(水)から12月31日(金)までの間、年末特別警戒として、各家庭の防犯診断や防火防犯の啓発活動を行っています。戸締まりをきちんとし、家の周囲に燃えやすい物などを置かないようにしましょう。それに伴い、12月25日(土)から12月31日(金)の間、夜警巡視を行います。特に年末は家庭も職場も何かと慌ただしくなり、火の始末の不注意による火災が過去に多く発生しています。暖房器具・ガスコンロ・たばこの火の不注意やちよつとした油断が火災につながります。外出前やおやすみ前には必ず火の元の点検を行う習慣を身につけ、悲しい事故を起こさないように、忙しい時こそ「火の用心」を心がけてください。

「火災予防パレード」

秋の火災予防運動期間中(11月9日(15日)の14日(日)に火災予防パレードが行われました。火災が



1日消防署長として派遣された
ミズオッコの3人

発生しやすい時期を迎えるにあたり、火災予防の意識の高揚と防火の徹底を呼びかけました。

この日は、ミズオッコの堀内かおりさん、牛山美雪さん、植松和恵さんの3人が一日消防署長に任命され、チラシなどを配り、啓発活動を行いました。

またイベントとして「富士見駅前」あぐりモール「西友富士見店」で消防ラッパ隊、スポーツ少年団パトントワラー、マーチングバンド鼓笛隊による演奏が行われました。

今年には既に18件の火災が発生しており、昨年の11件を超えています。いつ何時、災害に遭うかわかりません。「自分の命、財産は自分で守る」といった意識を常に持ち、防災・防犯を心がけましょう

高原の風にふかれて

池の袋にオープン「ほっと夢屋」

信濃境駅前に夢屋がオープンして早4年半になります。コーヒーやケーキ、クッキーなどの喫茶部門と衣類などのリサイクル部門が活動の柱です。駅を訪れる観光客や喫茶店内の絵画展などを楽しみ、リピーターも確保しつつあります。体に障害を持つ人と持たない人が協力して運営をしているのが夢屋の特徴です。

運営にはそれぞれの時点で苦労がありました。ポランティアの方々の協力があって次の段階にステップアップしました。その形が

「ほっと夢屋」です。老人福祉センター清泉荘の下側に9月にオープンしました。

入口はスロープで段差が少なく配慮された設計で、木の香りが心地よい建物です。関係業者の献身的協力、かかわる多くのポランティアの苦労の末に完成しました。オープンには色々な事がありました。オープンには色々な事がありました。オープンには色々な事がありました。

根気のいる作業ですが参加者が熱心に取組み、織りの力もだいぶついてきたようです。

市川さんは障害を持った方々と伝統の文化を守る意味と新しく素材を変えて枯葉、枝などの自然素材を織り込みオリジナル作品をこの場で一緒に楽しみたいと話されました。

機織りと並行して、障害を持った方々との交流や地域と共に歩む視点からピザ釜を使った体験工房や燻製作りも進めています。福祉の枠から飛び出そうとする意欲が感じられます。小学生やお年寄りの声も「ほっと夢屋」で聞かれる日も近いと感じました。



運営にはそれぞれの時点で苦労がありました。ポランティアの方々の協力があって次の段階にステップアップしました。その形が

